opusdei.org

属人区長の書簡 (2013年10月)

今月の書簡にオプス・デイ属 人区長は「罪のゆるしをもた らす唯一の洗礼を認め」とい う使徒信条の個条について解 説します。

2013/10/14

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

数週間前、教皇様のお勧めに従って、世界の平和と人々の心の平和の

ための根気強い祈りが各地で天に捧げられました。私は、聖ホセマリアが1952年に、Corlesu

Sacratísimum, dona nobis pacem! という射祷を繰り返すよう勧めたこ とを思い起こしました。その後、et Miséricors を加えられましたが、そ れは、慈しみ深い至聖なるイエスの 聖心に全世界の平和を嘆願するため でした。また、敵対心や暴力を排し つつ、神を信じることからもたらさ れる内的な平和と全ての人々の間に 人間らしい平和があるよう願うため でもありました。ヨハネ・パウロニ 世とベネディクト十六世も世界平和 のため祈られ、祈るよう仕向けられ ました。

教皇様が、世界中に断食と祈りの日を提案されたとき強調されたように、人々が罪に対して徹底的に戦い、神との平和を取り戻し、維持しようと努めない限り、社会に平和を呼びかけても無駄です。恨みや敵対

この忠告は常に現実的なことですが、オプス・デイ創立記念日前夜には特別な響きを呈します。あの1928年10月2日、主なる神は、無限の慈しみによって創立者に、皆が聖性に招かれていることを全ての自分にというさせるようにというでした。同時におの手一その魂と心一にオプス・専門でもれたのです。の手にされたのです。と日常生活のあらゆる状況において

聖性にいたる道を示され、この目的 に達するためのふさわしい精神と使 徒職の手段をお与えになりました。

それから85年の歳月が流れました。 そして、神の御慈しみによってオプ ス・デイは、神がオプス・デイにお 望みになった、教会と人々に仕える 使命を果たしています。神から託さ れたこの明白な役目に、いつも細心 の注意を払って取り組みましょう。 ずいぶん前に創立者がこう記してい ます。「私たちは、うぬぼれること なく、オプス・デイ、神の業によっ て地上に神的な召し出しの道が開か れた、と言うことができます。|[2] 心を挙げて至聖三位一体と聖母に感 謝しましょう。神の恩恵は聖母を通 して地上にもたらされます。それと 同時に自問してみましょう。この メッセージが、自分の心に、そして 人々の心に、より深く染み込むよ う、どんなことができるでしょう か。もっと祈り、犠牲を捧げ、正し

い意向で専門職に励み、新たな人々とかかわりを持ち、仕えるための機会を探し出すことが、もっとできるのではないでしょうか。

しかしながら、苦痛を感じることがあります。ある人たち一カトリック信者の中にも見られる一が冷ややかな態度で教会について話すだけではなく、私たち教会の子らの過ちや欠

点を教会のせいにしてしまっていま す。私たちは一尊厳を与えられたに も関わらず一罪への傾きを持ち続け ている哀れな人間であるからです。 聖なる教父たち、あるいは教会が天 国に導いた多くの聖なる人たちは、 それとは全く違った焦点の当て方を しています。例えば聖アウグスティ ヌスは「主なる神を愛し、教会を愛 しましょう。主を父として、教会を 母として愛するのです| [4] と促し ています。その2世紀前に聖チプリ アヌスはきっぱりとこう宣言してい ます。「教会を母としない人は、神 を父にすることはできない。」[5]

最近、教皇フランシスコは私たちの 信仰のこの真理をあらためて説明されました。「信仰は贈り物です。神 からのたまものです。このたまもの は教会の中で、教会を通してわたし たちに与えられます。また教会は、 洗礼によって信仰のいのちをわたし たちに与えます。洗礼は、わたした

ちが神の子として生まれ、わたした ちに神のいのちが与えられる瞬間で す。 | [6] 私たちが至聖三位一体の み名において洗礼の水を受け、その 御力によって再生した日は、人生に おける最も重要な日です。教皇様と 共に自問してみましょう。「教会を どのように見ているでしょうか。わ たしは自分を生んでくれたがゆえ に、両親に感謝します。それと同じ ように、洗礼を通してわたしを信仰 へと生んでくれたがゆえに、教会に 感謝しているでしょうか。」[7] オ プス・デイにおいては皆が、神の恩 恵と聖ホセマリアの見守りによっ て、この現実を活き活きと自覚し、 絶えず心からの感謝を捧げていま す。というのも、オプス・デイは一 パウロ六世がある年のこの日、創立 者に送られた直筆の書簡で強調され たように一今のこの時代に「教会の 不滅の若さを活き活きと表すものと して | [8] 生まれたからです。聖な る創立者とすでに天の祖国にたどり

着いたオプス・デイの多くの信者に一致して私たちも言明しましょう。 「心からの熱意を込めて、わたしの母にして聖なる教会を愛すると言えるのは、何という喜びだろう。」[9]

これまでのようにこの手紙でも、ク レドについての考察を続けることに します。今日は信条の「罪のゆるし をもたらす唯一の洗礼を認めし[10] を考察します。この信条がクレドの 終わりに置かれている理由について 考えます。「使徒信条は罪のゆるし に関する信仰を、聖霊への信仰と、 さらに教会と聖徒の交わりとに関す る信仰にも結び付けています。復活 されたキリストは聖霊を使徒たちに 与え、罪をゆるすご自分の神的権能 を使徒たちに授けられました。『聖 霊を受けなさい。だれの罪でも、あ なたがたがゆるせば、その罪はゆる される。だれの罪でも、あなたがた がゆるさなければ、ゆるされないま ま残る』(ヨハネ20.22-23)。| [11]

教会はイエス・キリストが制定された 聖性の手段を全面的に保っていま す。この世でお過ごしになった間の 主のお言葉や御振る舞いには救霊の 意味が込められていました。ですか ら大群衆がイエスのもとに赴き、耳 を傾け、主に触れようと望んだこと は何も不思議でないばかりか、当然 のことだと思うのです。「イエスか ら力が出て、すべての人の病気をい やしていたからです。| [12] その言 葉や振る舞いは、決定的に悪魔と罪 と死を打ち負かす過越しの神秘を告 げ知らせ、その力に前もってあずか らせるものでした。そして主は、全 てが成就された後で教会に与えるも のを準備しておられたのです。「キ リストの生涯の諸神秘は、後にご自 分の教会の役務者を通して諸秘跡の 中でキリストが分け与えられるもの の基本となっています。事実、『わ たしたちの救い主の言行として書き 記されていることは、諸秘跡の働き

へと移し変えられたのです』。」[13]

諸秘跡は固有の恩恵を与えるものです。1967年に創立者が記しておられます。「秘跡は、人となられたみことばの足跡、私たちを聖化し天国に導くために、神が一主以外には誰もできないこと一選び決定されたしてとかな表れ、各秘跡固有のしるしにかな表れ、各秘跡固有のしるしてとかな表れ、各形跡に与えられることを見える形にしてくださった道具ではないですか。」[14]

の秘跡 - 少なくともそれを望む - は 救霊に必要だからです。イエスがニ コデモにこう仰せになっておられま す。「水と霊によって生まれなけれ ば神の国には入れない。」[15]事 実、カトリック教会のカテキズムが 言うように、聖霊は教会外でも働く ことができるし、実際に働いていま す。しかし、神ご自身がキリストの 死と復活にあずかるための通常の道 をお定めになりました。救いは洗礼 を通して教会の家族になることから もたらされます。ですから「幼児に 洗礼を授けるというのは、起源を特 定できないほど古い教会の伝統で す。| [16] カトリック教会のカテキ ズムには、こうも書かれています。 「幼児洗礼においては、救いの恵み が全く無償で与えられることが特に 顕著に示されます。もし、教会と両 親が、生まれてまもなく子供に洗礼 を授けないとすれば、神の子となる はかりしれない恵みを子供に与えな いことになるでしょう。」[17] そし てこう締めくくっています。「キリスト信者である両親は、この習慣が神からゆだねられたいのちの養育者としての役割にこたえるものであることを認めるべきです。」[18]

洗礼は罪をゆるし、成聖の恩恵を与 えるだけではなく、他の秘跡につな がる門です。こうしてキリスト信者 はますますイエス・キリストと似たも のになっていき、ついには主と一体 化することができるまでになるので す。洗礼を受けた人は皆、その後、 子ども大人も、信仰、希望、愛徳を 深めていかなければなりません。そ れは一先に記したように一救いの手 段の保管所である教会において達成 できることです。教皇様が先月のあ る日の要理指導でこのように述べて おられます。母親は「いのちを与え るだけでなく、子どもたちが成長す るために心から気を配ります。ミル クを飲ませ、食べさせ、生きる道を 教え、たとえ子どもが大きくなって

も、愛情と愛をもってつねに彼らに 同伴します。だから母親は、正し、 ゆるし、理解することができます。 病気のとき、苦しむときに寄り添う ことができます・・・。」[19] 教会 は、洗礼を通して生んだ子どもたち に対して同じように振舞います。教 会は「わたしたちの成長に同伴しま す。そのために教会は神のことばを 伝えます。(・・・)また、秘跡を授け ます。聖体によってわたしたちを養 い、ゆるしの秘跡によってわたした ちに神の赦しを与え、病者の塗油に よって病気のときにわたしたちを支 えます。教会は、わたしたちの信仰 生活全体、キリスト教的生活全体を 通じてわたしたちに同伴します。| [20]

父なる神の御憐れみは何と大きなことでしょう。私たちが弱く、そして一善意を持ちながらも一幾度も罪を犯したり過ちに陥ったりするのをご存知なので、ご自分の花嫁・教会にゆ

るしの秘跡を託されたのです。主は ゆるしの秘跡を「ご自分の教会に高 するすべての罪びとのために制定との かました。まず第一に、洗い 大罪を犯して洗礼の恵みを失た 大罪を犯して洗礼の恵人々の す。」[21] ゆるし、内的戦いのたち す。」[21] ゆるし、内的戦いのたち が 当ちを力をもたらし、一教のでと 新たないるように一「恵みのが という難破の後に投じられる、 の)二枚目の板」[22]

として私たちに示されます。

聖ホセマリアがどれほど和解の秘跡を愛しておられたか一好んで「喜びの秘蹟」と読んでおられました一を思い出します。そして、しばしばゆるしの秘跡にあずかるよう勧め、絶えず「告解の使徒職」をするよう促しておられました。ここでは、要理指導に関する多人数の集まりで言わ

れたことを引用するだけに留めます。

「告解すること、告解すること、告 解すること。キリストは人間に何と 溢れんばかりの御慈しみを注がれる ことでしょう。物事がうまく行かな いのは、清めて頂き、活気を取り戻 すため、主の許に赴かないからで す。体を清潔にし、スポーツに励 む・・・。とてもよいことです。ところ で、もう一つの心のスポーツは? 私 たちを再生させ、洗い清めて活き活 きとさせてくれるこのシャワーはど うでしょうか。なぜ、神の恩恵を頂 くようにしないのでしょうか。ゆる しの秘跡を受け、ご聖体を拝領する ことです。秘跡を受けなさい。秘跡 にあずかるのです。しかし、汚れた 心のままでご聖体を拝領してはなり ません。| [23]

他の折にこう強調していました。 「子どもたちよ、友人や親戚、愛す る人たちに告解を勧めなさい。彼ち切めなき、告解を勧めなき、告解にとは、告解にとは、告解にとは、それならずないがればならであるとです。では必要では必要である。とを達したがあるので検とはできない。ことも気がしたがあるので検とはでは(・・・)。

主は多くの人がゆるしの秘跡において霊的なシャワーを浴びるよう期待しておられます。そして、婚宴、感謝の祭儀の大祝宴を催し、永遠の契約と忠実、友情の指輪を授けようと準備しておられるのです。ゆるしの秘跡に赴くこと(・・・)。多くの人が神のゆるしに近づきますように!」[24]

ここでペンを置くことにします。教皇様のご意向に固く一致していましょう。日々、教皇様の全てのご協向と教会統治における教皇様の協力者の方々のため、人の心の平和と世界中の平和のため、祈ることでものではなって、毎日、この行り続けるよう最大限の努力を傾けましょう。この祈願は、日ごとに

熱意のこもったものにならなければ なりません。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2013年10月1日

- [1] 聖ホセマリア、「道」301番。
- [2] 聖ホセマリア、1953年8月15日手 紙12番。
- [3] エフェソ 3,14.
- [4] 聖アウグスティヌス、詩篇88,14 について(PL37,1140)
- [<u>5]</u> 聖チプリアヌス、「カトリック 教会の一致について」6(PL 4,510)

[6] 教皇フランシスコ、2013年9月11 日一般謁見の講話

[7] 同上

[8] パウロ六世、1964年10月1日聖ホセマリアへの自筆書簡

[9] 聖ホセマリア、「道」518番。

[10] ローマミサ典書、「ニケア・コンスタンチノープル信条」

[11] カトリック教会のカテキズム、 976番。

[12] ルカ 6,19.

[13] カトリック教会のカテキズム、 1115番。大聖レオ説教74,2(PL 54,398)参照

[14] 聖ホセマリア、1967年3月19日 手紙74番。

[15] ヨハネ3,5.

- [16] カトリック教会のカテキズム、1252番。
- [17] 同上1250番。新教会法典867条 参照。
- [18] 同上1251番。
- [19] 教皇フランシスコ、2013年9月 11日一般謁見の講話。
- [20] 同上
- <u>[21]</u> カトリック教会のカテキズム、 1446番。
- [22] 同上。
- [23] 聖ホセマリア、1974年7月2日家 族の集まりのメモ
- [24] 聖ホセマリア、1974年7月6日家 族の集まりのメモ

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2013nian-10yue/ (2025/12/16)